

「総ぐるみ」新聞

日限山荘で囲碁を習いませんか？

(碁盤の「寄付」と指導者になっていただける方も、募集中！)

夏休みで閉めていた日限山荘を、9月から再開しています。ここで囲碁を楽しんでいただきました。一面をベテラン同士の対決、もう一面を初心者の手ほどき用に使用して、まだまだ暑い日でしたが楽しい時間を過ごしていただきました。

今まではベテランの打つ碁を見ていた人(とくに女性)の皆さんから、「ぜひ囲碁を教えてほしい」という声があがって、やってみようと言うことになりました。

しかし、残念なことに日限山荘には碁盤が二面しかないのです。そこでお願いです。使っていない碁盤や将棋盤がありましたら、「ご寄付いただけませんか？ また、「ご指導してくださる方のお申し出でもお待ちしております。」

ご連絡先 (844)7477 宮崎

こんなことをお引き受けします。

生活援助 (掃除・買物・洗濯・炊事)
身体介護 (通院同行・清拭・排泄介助・散歩・洗顔・洗髪・食事介助)
介護認定申請のお手伝い、ケアマネジャーの紹介など。

総ぐるみ福祉の会は、ヘルパーが15人いる「介護保険が使える訪問介護事業所」です。

「介護認定を受けようかどうか迷っているけれど、なんだか面倒くさそうだな」と考えていらっしゃる方が多いと思います。

そんな方のために、NPO総ぐるみ福祉の会が、最初の取っ掛かりのお手伝いをします。お気軽にご相談ください。

お問い合わせは Tel844-7477

総ぐるみ福祉の会のホームページをご覧ください。

アドレスは <http://sougurumi.jp/> です。

「総ぐるみ」新聞のバックナンバーも、ホームページで見られますよ。

ようこそ総ぐるみ福祉の会へ！



「遠い親戚より近くの他人」という諺がありますが、私たち「NPO総ぐるみ福祉の会」がめざす理想がまさにそれ。この街に住む気心の知れた「近くの他人」同士が集まって、お互いに助け合いながら、NPOの精神に基づいた有料ボランティアサービスをご提供いたします。

あなたは 番目の来訪者です。

日限山荘9月のオープン日

開催時間 (午前10時~午後4時)

- 22日 おしゃべりと囲碁
- 27日 おしゃべりと囲碁
- 30日 昼食会

※30日の昼食会参加お申込

会費 1,000円

お申込の時。会費をお願いします

申込日

22日、27日

菅沼さんが日限山荘にて受付をしてくださいます。お申込にいらしてください。そして、おしゃべりや囲碁を楽しんで行ってください。

日限山荘10月の開催日

開催時間 (午前10時~午後4時)

- 5日 (火) 8日 (金)
- 12日 (火) 15日 (金)
- 19日 (火) 21日 (木)
- 26日 (火) 29日 (金)

火曜日の午後は囲碁を楽しんでください。

その他ご自由にご利用ください。

よい企画をご提案いただいて、集まりやすい憩いの場にしたいと思います

NPO総ぐるみ福祉の会・事務所は日限山4-44-23の宮崎宅です。入会や活動等については、宮崎浩子(Tel844-7477)、増澤喜一郎(Tel842-9084)、笠原松次(Tel845-6266)、菅沼永子(Tel844-9193)、米川満寿子(Tel841-9433)、菊地幸子(Tel841-4862)に。日限山荘でも受け付けています。

物忘れフォーラム

「痴ほう症」 なくすために今できること

前回に続いて、去る七月三十一日、横浜パシフィコで行われた講演会の内容を、報告します。

Ⅲ 患者の過去から学ぶよりよい介護の築き方

慶成会老年学研究所周長

大正大学教授、臨床心理士 黒川由紀子

痴ほう症といっても症状は千差万別ですが、一般に思われているよりも、人格の核になる部分はかなり残り、ケアしだいで人格や記憶というものはある程度保つことができます。そのためにも、早い段階で診断を受け、「適切な介護を受ける必要」があります。

アルツハイマー病の人のこころ

- ① 普通に接する事がよいお付き合いの第一歩。
- ② 障害があっても、「こころ」はたくさんある。
- ③ 情緒や気持を発信したり、受信したりするチャンネルの一部が故障している。
- ④ 介護者が、言葉やサインを「聞き」、「見る」ことが必要。

アルツハイマー病患者の、人生の先輩として生きた歴史を尊重して、「思い出」を介護に生かすことが重要で、「回想法」または「思い出療法」

ともいいます。

介護に「回想法」を取り入れるメリットは、患者側には、残された能力や自分の存在の意味、自尊心といった「こころの核」になる部分を維持していく方法になります。それとともに、介護する側が、患者さんの個性や人生の歴史を知る事により、患者を理解して、生活の質の向上やその方らしさを大切にする事ができます。

記憶は、写された写真ではなく、描かれた絵のようなものです。当初は否定的な回想であっても、繰り返しうちに肯定的な意味が出てきます。また、過去に託して今の思いを語る場合が多いので、患者さんが語りたい事を共感を持って聞き手が聞いていければ、本来ならどんどん薄まっていく患者の記憶が、語ることで強化され、こころの宝物である記憶を、未来に残すことができます。

よい介護とは、介護する側が、自分自身の「受信機」の感度を上げ、「発信」の方法を工夫し、真心を込めて接していく事ではないでしょうか。

Ⅳ 暮しなれた地域で幸せに生きる

(社)地域医療振興協会 地域医療研究所

八森 淳

病気を治すだけでなく、病気をうまくコントロールするお手伝いをするのも、かかりつけ医の役目です。そこで、痴ほう症という病気も、医学的な治療だけでなく、患者が痴ほう症と上手に付き合いながら、できるだけ普通の、自分らしい暮らしを維持していく手助けをするのが、私達医師の

行うべき仕事のひとつだと思います。

ただ現在の医療スタイルでは、自ら望まない限り医者の診察を受ける機会はありません。そこで、社会的に孤立せざるを得ない状況の方、医療を必要とする方などを、保健士・福祉関係者・介護スタッフや、地域の住民などの情報提供によって、医療側がうまく連携をとる地域医療の必要性が、高齢者が増える今後は必要になってきます。

今年の春まで、青森白石町の病院に勤務して、「もの忘れ外来」を開いていました。そこでは、痴ほう症の進行を押さえる薬とともに、「生活処方箋」を出しました。その内容は、家族や介護者と協議した課題として、次のようなものです。

- ① 少し援助すればできる事、
- ② 以前していた事、
- ③ 興味ある事（以前興味のあった事）
- ④ 人のためになる役割など

そして、できた事はほめて評価するようにして取り組むと、患者の表情や症状、生活の質が明らかに異なってきました。しかし、生活の場を共有しないかかりつけ医の援助には限度があります。地域住民が痴ほうを正しく理解して、皆で痴ほうの方を支える体制ができれば、誰でも安心して暮せます。最近もの忘れがひどくなった、普通にできたことができなくなったなど、以前と違う自分に気付いたら、専門家は勿論、周りから声をかけてもらえるような、そんな街にしたいものです。

(文責 藤井 香代)